

Salon

Vol.146 2023年9月 秋号



ホール4F壁画 ポール・ゴアマン作「チューリップ」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — 菊池洋子
- 03 Phoenix Presents — La Toile Blanche 箏曲演奏会 — 現代邦楽、サイセイ
- 05 Pick Up
- 07 Essay de say — 視覚障害者と共に創る暗闇のコンサート「ミュージック・イン・ザ・ダーク」[©]

彩りと生気に満ちた“謳うピアノ” 菊池洋子さん

「色々な私の思いが詰まったプログラムになっています。ぜひお聴きいただけたら…」。11月にザ・フェニックスホール「ティータイムコンサート」に初登場する、ピアニストの菊池洋子は話す。2002年にモーツァルト国際コンクールを日本人として初めて制し、ザルツブルク音楽祭に出演を果たすなど、ソリストとしてはもちろん、室内楽や国内外の主要オーケストラとの共演まで幅広い活動を展開し、今や人気・実力ともに日本を代表するピアニストの一人として活躍する彼女。ステージでは、ライフワークに位置づけているモーツァルトと、「ようやく自分なりの表現が見つけた」というショパンの佳品を聴かせる。「一つ一つの音を大切にするのはもちろん、何よりも、きちんと“歌”になっていなければ。そのため、実際にピアノの旋律へ詞を付けて歌い、そのように弾いているかを常に考えています」と菊池。彩りと生気に満ちた“謳うピアノ”で、2人の大作曲家の新たな魅力を紡ぐ。

(寺西肇 音楽ジャーナリスト)

菊池洋子(きくち・ようこ/ピアノ)

2002年モーツァルト国際コンクールにおいて日本人として初めて優勝、一躍注目を集めた。その後、ザルツブルク音楽祭に出演するなど国内外で活発に活動を展開し、いまや実力・人気ともに日本を代表するピアニストの一人である。前橋市生まれ。故田中希代子、故林秀光の各氏に師事。桐朋学園女子高等学校音楽科卒業後、イタリアのイモラ音楽院に留学、フランコ・スカラ、フォルテピアノをステファノ・フィウツツィに師事。国内主要オーケストラとの共演をはじめ、ザルツブルク・モーツァルテウム管、ハノーファー北ドイツ放送フィル、南西ドイツ・フィル、ベルリン響等と共演。ザルツブルク音楽祭、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン音楽祭、ブラハの春音楽祭等にも度々招かれる。2009、2018～19年にモーツァルトのピアノ・ソナタ全曲をフォルテピアノとモダンピアノを用いて演奏するといった意欲的な企画に取り組み好評を得た。2021年3月にはJ.S.バッハ《ゴルトベルク変奏曲》を初披露するなど、挑戦を続けている。最近ではバレエとのコラボレーション公演にも出演。CD録音も活発に行い、ソロのほか、ホルンの世界的名手ラデク・バボラークと共演したアルバムもリリースしている。前橋市Presents 舞台芸術祭芸術監督、第1回上毛芸術文化賞(音楽部門)受賞。2007年出光音楽賞受賞。
菊池洋子オフィシャルホームページ：
https://www.yokokikuchipf.com

「夭折の天才」2人の佳品から新たな魅力を

Yoko
Kikuchi

11月のステージの前半は、菊池が「モーツァルトのソナタの中でも、特にお気に入り」だと明かすニ長調K.311が軸に。さらに、しばしばソナタの前に「幻想曲」が弾かれたモーツァルトの時代の習慣に倣い、作曲家の死生観が投影されたような、深い精神性に満ちたニ短調K.397を披露。「作曲時期は少しずれますが、この幻想曲は最後にニ長調へ転調するので、ソナタとも巧く繋がると考えました」。そして、わが国では『きらきら星変奏曲』として知られる《フランス歌曲“ああ、お母さん、あなたに申しましよう”による12の変奏曲》を添える。

「この変奏曲を通して聴いて、『こんなに素敵だったんですね』と仰るお客様もいらっしゃるし、私自身もステージで非常に楽しく弾いているので、ぜひ聴いて頂きたいと…誰もがご存じの有名な旋律で、演奏会が初めての方にも、親しみを持っていただけるはず」。モーツァルトには、フォルテピアノでもアプローチしている菊池。「モダン・ピアノを弾く時にも、常にフォルテピアノの音やフレーズをイメージしていますし、その経験が生きていると自分でも思っています。こうした部分も、感じ取って頂ければ、嬉しいですね」。

かたや、後半の軸に据えたのはショパン、しかも“最後の大作”である『ソナタ第3番』だ。「ピアノと言えば、まずショパンですから」と笑いつつ、「ショパンも一時期、ウィーンに住みましたし、その活動拠点のパリには、モーツァルトも訪れていました」。そして、このソナタは、今年のリサイタル活動の中心に。「私はバレエがとても好きで、コラボレーションをすることもありますが、10年ほど前に、パ・ド・ドウ(一組の男女による舞踏)でショパンの作品を弾く機会がありました」。この経験が、自身の意識を変えたという。

「巨匠たちの素晴らしい録音が数多く残されていて、今やピアニストとしてはやるべきことがなく、『これらを聴いていればいい』と、ずっと考えていたのですが…テンポ感にせよ、フレーズにせよ、全く新たな角度から作品を見ることができて、自分なりの表現が見つけた手応えを得ました」。そして、菊池が「ショパンの集大成」と捉える大作の前には、ほぼ同時期に書かれた「子守歌」を置いた。「実質的に変奏曲の形式を採っているため、モーツァルトのフランス歌曲に基づく変奏曲とも、緩やかに繋がりますね」。

ザ・フェニックスホールでの演奏は「本当にお客様との距離が近い、小さな空間なので、表現のそ

ケール感を大きくする必要のある大ホールでの協奏曲とは、やはり意識が全く違います。より自然と言うか、一人での“語りの時間”という感覚ですね。そして、「前半はモーツァルトのピアノ曲の中から、3つの異なるタイプの曲をお聴きいただいてリラックスしていただき…後半は、本当に美しい『子守歌』に始まり、『ソナタ 第3番』の劇的な終楽章で締め括る構成なので、きっとお楽しみいただけるはず」と語る。

7月に発表したバッハ《ゴルトベルク変奏曲》の録音(エイベックス)は、大きな話題に。この作品への“開眼”は「20年以上も前、まだ10代の頃」のイタリア留学中に聴いた、アンドラーシュ・シフの演奏だったという。「余りに壮大すぎて“先が見通せない曲”と思っていたのに、80分が一瞬に感じられて…最初の一音から最後の一音まで、『この曲は、こういう作品だ』と、はつきり解りました。とても感激して、ルツェルンでのマスタークラスにも参加して、教えを請いました。そうすると、シフさんは毎年、この曲に集中的に取り組むから、こういう境地に辿り着いたと知って…私も何度か挑戦したのですが、まとまった時間も取れずに『私には、まだ早い』と逡巡して…」。

転機となったのは、コロナ禍だった。「向こう半年間の演奏会が中止や延期になった時、『今しかチャンスはない』と思い、すぐに取り掛かりました」。チェンバリストの曾根麻矢子のレッスンも受けるなど、“ゴルトベルク漬け”の半年を過ごした。「チェンバロで聴くと、本当に美しい。でも、私は“自分の楽器”で、鍵盤音楽の最高峰を弾きたい。そんな感覚でしょうか。もちろん、この“人間の一生のごとき作品”をすぐ体得できるとは思わないので、(今の演奏は)自分の“日記”の感覚。毎年、決まった時期に弾いてアップデートして…。一生、弾き続けてゆきたいですね」。

さらに、フランソワ・クープランから美智子上皇后陛下まで、世界初録音を含む古今東西の29の名旋律を集めた『子守歌ファンタジー』(キングインターナショナル)も、9月に発表。今回のステージで弾くショパンの『子守歌』も収録されている。「恩師の故・田中希代子先生との不思議なご縁でお話を頂いたので、ほとんどの曲が初めて弾く曲。1年くらいかけて準備しました」と菊池。「出来上がった自分の録音を聴いていると、子守歌に癒されていつの間にか寝てしまい、なかなか全部を聴き通せなくて…」と苦笑する。

今年3月から、本格的にウィーンへと拠点を移した。ウィーン国立音大で、アシスタント・プロフェッサーとして、後進の指導にもあたっている。「私自身にも、とても勉強になります。自分の頃に比べれば、今の学生たちは、あつという間に正確に楽譜を弾きこなすものの、正直、個性に乏しいと感じることもあります。時に『あなたは、この曲を好きで弾いているのね。だったら、どうして、そんなに急いで弾いてしまうの?』と問い掛けてしまうことも…」。

自身が心惹かれる演奏は「シンプルでも、一つ一つの音に歌があり、言葉のように語り掛けて来る音楽」だと言う。今はウィーンで、敬愛するジョージア(グルジア)出身の名ピアニスト、エリザベト・レオンスカヤの薫陶も受ける菊池。「まずは一緒に歌って、そう弾けているかどうか、一つ一つの音が“声”になっているか…というレッスンです。全てが“歌”で、しかも右手と左手がいかに巧く連携できるのか…わずかに8小節に、1時間半かけることも。でも、だからこそ、先生はあれほど素敵な演奏ができるのだと実感しています」。

ベートーヴェンやシューベルトのソナタへの取り組みや、モーツァルトの協奏曲の弾き振りへの再挑戦など、菊池が自らに要求する課題は数多い。かたや、ウクライナ紛争など、予断を許さない不穏な世界情勢。しかし、「精神的に大変な状況に陥った時、やはり音楽や芸術は、心の支えになるのだと実感しています。私自身も、心身ともにたくたになつて帰宅した時、1日の疲れを吹き飛ばしたり、『自分が今日経験した思いなんて、大したことない』と感じられたりする環境を創ってくれるのは『音楽』です。私も、そう感じ取って頂ける演奏をお届けできるよう、勉強を続けてゆければ」。柔らかに微笑んだ。

ティータイムコンサートシリーズ165
菊池洋子 ピアノリサイタル

2023年11月17日(金)14:00開演 指定席
一般3,500円 友の会会員3,150円
学生(25歳以下)1,000円

■出演
菊池洋子(ピアノ)

■曲目
モーツァルト:幻想曲 二短調 K.397
モーツァルト:ピアノソナタ 二長調 K.311
モーツァルト:
フランス歌曲「ああ、お母さん、あなたに申しまよう」
による12の変奏曲 K.265
ショパン:子守歌 変ニ長調 op.57
ショパン:ピアノソナタ 第3番 口短調 op.58

■チケットのお求め・お問い合わせ
ザ・フェニックスホールチケットセンター
06-6363-7999(平日10:00~17:00 土日祝休)



ザフェニックスホール
友の会優先予約
9月22日(金)
10:00 受付開始

イーフェニックス
E-PHX優先予約
9月25日(月)
10:00 受付開始

一般発売
9月26日(火)
10:00

インターネット予約による
お申込みは9月27日(水)10:00から!

※発売日当日は電話予約のみ

■フェニックス・エヴォリューション・シリーズ107

主催 La Toile Blanche

2024年
2月6日(火)

18:30開演 自由席
前売¥2,000(友の会会員¥1,800)
当日¥3,000(友の会会員¥2,700)

“最盛”期の現代邦楽を、今、“再生”
奥深い現代邦楽の魅力を引き継ぎ、発信する
La Toile Blanche 箏曲演奏会
—現代邦楽、サイセイ—

出演 La Toile Blanche:宮井友梨香、山下菜央、中野加奈子、生友愛理(以上、箏、十七弦)
小林鈴純(尺八)、宇野文夫(解説)

曲目 唯是震一:神仙調舞曲
沢井忠夫:三つのパラフレーズ
清水脩:三つのエスキス
小山清茂:和楽器のための四重奏曲 第一番
宇野文夫:箏四重奏曲~三面の十三絃と十七絃のための~(新作初演)

箏曲における「現代邦楽」は、1940年頃から始まったと言われていて、第二次世界大戦後には、多くの日本の洋楽系作曲家が新しい曲調を取り入れた邦楽曲を作曲し、それに影響を受けた邦楽作曲家も様々な曲を作り、発展してきました。しかし昨今、邦楽人口は減少の一途を辿っており、邦楽に触れられる機会は失われつつあります。La Toile Blancheは、少しでも多くの方々から受け継がれてきたこれらの素晴らしい音楽を届けるべく、演奏活動を続けています。本公演では、現代邦楽の最盛期(1950-1970年代頃)に作曲された、異なる作曲家による独奏~四重奏の4曲を、そして終曲には新作初演となる曲を演奏し、過去と現在の現代邦楽をお伝えします。また、各曲の解説も行い、演奏及び解説という多角的なアプローチで現代邦楽の魅力をお届けし、邦楽に携わる人々が増える一助となるような公演にいたします。



Phoenix Spot いちおし公演情報

ヴァレリー・アフアナシエフ
~オール・ショパン・プログラム~

“CHOPIN IS MY HEARTACHE.” マエストロ・アフアナシエフに「あなたにとってショパンとは？」と聞くと、「ショパンを弾くことは心の痛み」という答えがかえってきました。かつてアフアナシエフはショパンについて次のように語りました。

「彼のマズルカやポロネーズを演奏するたびに、私は作家ディケンズを思い出す。彼の文章はとても豊かで、強烈で、響き、調性が絶えず移り変わる。ショパンは他にもゴーゴリ、ダンテのような作家を思わせる一方、結局のところショパンという作曲家は何ものでもない。唯一無二の存在なのである。」

2016年東京・紀尾井ホールでのアフアナシエフのマズルカの演奏に皆が涙しました。いまこの時代にアフアナシエフのショパンをザ・フェニックスホールの親密な空間で聴ける喜びを逃してほしくないとすべての音楽ファンにお伝えしたいです。



発売中

2023年11月28日(火) 19:00開演 指定席 一般¥12,000(友の会会員¥11,000) 学生券はありません。

出演 ヴァレリー・アフアナシエフ(ピアノ)

曲目 ショパン:ポロネーズ 第3番 イ長調 op.40-1「軍隊」 ワルツ イ短調 op.34-2、嬰八短調 op.64-2、口短調 op.69-2
ポロネーズ 第2番 変ホ短調 op.26-2、第1番 嬰八短調 op.26-1
マズルカ 口短調 op.24-4、変イ長調 op.41-4、変ニ長調 op.30-3、嬰八短調 op.30-4、ハ長調 op.56-2、ヘ短調 op.63-2、嬰八短調 op.63-3、イ短調 op.68-2

2024年度 フェニックス・エヴォリューション・シリーズ審査結果のお知らせ

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールは、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社が芸術文化支援活動の拠点として設置、運営している音楽ホールです。優れたアーティストによる自主企画公演を開催する一方で、発表の機会を探っておられるアーティストの方々に、個性溢れる公演でホールを活用いただくことも重要な事業と位置付けています。「フェニックス・エヴォリューション・シリーズ」は、プロ・アマを問わず、音楽を愛するみなさまから公演の企画を募り、審査を経て選ばれた方々にホールを無料で提供しています。2024年5月から2025年2月までの4公演の枠に、国内外から28編のご応募をいただきました。去る7月15日に選考検討会を開催し、アドバイザーのご意見を伺ったあと、さらにホールで選考を進めた結果、3編の企画を入選いたしました。

■選考アドバイザー(五十音順)

磯島浩彰 様(音楽ライター) 栗田萌 様(音楽ライター) 小石かつら 様(関西学院大学文学部教授) 中川賢一 様(ピアニスト) 西村理 様(大阪音楽大学教授)



【フェニックス・エヴォリューション・シリーズ108】
採用企画名/井上玲リコーダーリサイタル ~協奏曲のタベ~
開催日/2024年5月14日(火)
出演/井上玲(リコーダー)、大内山薫、高橋亜季(以上ヴァイオリン)、門倉佑希子(ヴィオラ)、永瀬拓輝(チェロ)、曾根田駿(チェンバロ)



【フェニックス・エヴォリューション・シリーズ109】
採用企画名/小塩真愛・三原未紗子 ピアノデュオリサイタル
開催日/2024年11月13日(水)
出演/小塩真愛、三原未紗子(以上ピアノ)



【フェニックス・エヴォリューション・シリーズ110】
採用企画名/Duo März | Duoの試み 2025 mit フロインデ
開催日/2025年2月4日(火)
出演/井上ハルカ(サクソフォン)、西岡まり子(打楽器)、深見まどか(ピアノ&キーボード)、黒川冬貴(コントラバス)、土橋庸人(エレキギター)

ホール主催・共催・協賛・協力公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999

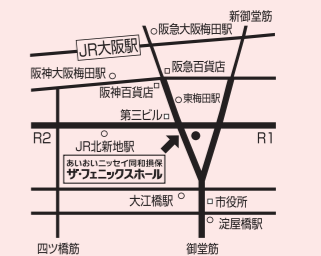
土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

<https://phoenixhall.jp/>

チケットセンターのページからお申込みください

直接のご来店による
お申込み

・ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物3階、エレベーターを降りて廊下右手です。



- ザ・フェニックスホール友の会優先予約
 - ・ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
 - ・主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
 - ・友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができ、その際、年会費1,000円が別途必要となります。

- E-PHX(イーフェニックス)優先予約
 - ・E-PHX(イーフェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
 - ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
 - ・事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話での登録はできません。

- 一般発売
 - ・一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
 - ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

- インターネット予約(主催公演のみ)
 - ・ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
 - ・チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますが電話でお問合せください。
 - ・ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
 - ・学生券のインターネットによるご予約は受付いたしていません。
 - ・チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

チケットお申込み後のお受け渡し方法

電話予約後に郵便振込をしていただき、入金確認後にチケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール

チケットセンターからのお知らせ

郵便物の特殊取扱料の改定に伴い、2023年10月1日(日)からチケット送料を変更いたします。
現行)420円→変更後)450円 何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。



チケットセンター窓口でのお支払いが便利になっています!

2023年1月16日よりチケットセンター窓口でキャッシュレス決済が始まっております。貸館公演を含めたすべての公演チケットのお支払いにキャッシュレス決済が可能です。どうぞご利用ください。

*PayPay、d払いをご利用いただけません(2023年9月現在) *友の会年会費は現金のみのお支払いとなっております。



あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内 ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛公演 **稲垣聡 ピアノリサイタルシリーズ(全3回)**
ルートヴィヒの遺言～最後の3つのソナタとともに～ Vol.III
L.v.ベートーヴェン+C.ドビュッシー《遺言～最晩年の傑作～》


2023年11月22日(水) 19:00開演 自由席
 一般前売¥3,500(友の会会員¥3,150) 一般当日¥4,000(友の会会員¥3,600) 学生前売¥2,000 学生当日¥2,500

出演 稲垣聡(ピアノ)

曲目 ヴェーベルン:ピアノのための変奏曲 op.27
 ベートーヴェン:ピアノソナタ 第32番 八短調 op.111
 ドビュッシー:12の練習曲(1915)

ベートーヴェン最晩年の傑作“最後の3つのソナタ”と、近現代作品に数多く接してきた稲垣が選りすぐった20世紀の作品を交差させたプロジェクトがいよいよ最終章へ。ベートーヴェンから現代への潮流、そして未来を見つめた3年間のゴールにお立ちください。

主催 サウンドinn企画



協賛公演 **古海行子 ピアノ・リサイタル「Liszt」**


2023年12月3日(日) 13:00開演 指定席
 前売・当日¥4,000(友の会会員¥3,500) ※友の会割引はお1人様2枚まで

出演 古海行子(ピアノ)

曲目 J.S.バッハ:イタリア協奏曲 BWV971
 シューマン:謝肉祭 op.9
 リスト:愛の夢 第3番
 リスト:ピアノソナタ 口短調 S.178

2022年第12回ダブリン国際ピアノコンクール第2位を受賞。2021年第18回ショパン国際ピアノコンクールセミファイナリスト・高松国際ピアノコンクールの優勝後、日本コロムビアのOpusOneレーベルよりCDデビューを果たし、着実に活躍の場を拡げてきた古海行子(ふるみやすこ)。2021年にはショパンコンクールにてセミファイナリストに選ばれ多くのピアノファンを魅了した。4年ぶり2枚目となる新作CDを引っ提げてCD発売金コンサートを各地で開催。収録予定曲「リスト:ピアノソナタ」を中心に大阪では初となる本格リサイタルを開催します。

主催 日本コロムビア株式会社



協賛公演 **京増修史 ピアノ・リサイタル**

2023年12月3日(日) 18:00開演 指定席
 前売・当日¥4,000(友の会会員¥3,500)

出演 京増修史(ピアノ)

曲目 ブラームス:3つの間奏曲 op.117
 ベートーヴェン:ピアノソナタ 第23番 へ短調「熱情」 op.57
 シューベルト:即興曲 第3番 変ト長調 op.90-3 D899
 ブーランク:15の即興曲より
 ラフマニノフ:ピアノソナタ 第2番 変口短調 op.36 (1931年版)
 カプースチン:変奏曲 op.11

第18回ショパン国際ピアノコンクール2021出場。第2次予選進出し注目度急上昇。新進気鋭のピアニスト。

主催 日本コロムビア株式会社



協賛公演 **“KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka”～関西圏の最大拠点 大阪梅田で展開する芸術音楽～**
関西弦楽四重奏団 ベートーヴェン:ラズモフスキー・セット全曲演奏会


2023年12月4日(月) 18:45開演(18:15開場) 指定席
 前売・当日¥5,000(友の会会員¥4,500) ※友の会割引は前売のみ

出演 関西弦楽四重奏団/林七奈、田村安祐美(以上ヴァイオリン)、小峰航一(ヴィオラ)、上森祥平(チェロ)

曲目 ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第7番 へ長調「ラズモフスキー 第1番」 op.59-1
 弦楽四重奏曲 第8番 ホ短調「ラズモフスキー 第2番」 op.59-2
 弦楽四重奏曲 第9番 八長調「ラズモフスキー 第3番」 op.59-3

2017年11月から2019年4月にかけて全6回に渡り開催された関西弦楽四重奏団:ベートーヴェン・弦楽四重奏曲全曲ツクルスから今回はラズモフスキー3曲すべてを一夜で演奏します。この贅沢な師走のひと時は是非味わってください

主催 コジマ・コンサートマネジメント



協賛公演 **中村澁己 津軽三味線・リサイタル「風華秋色」**


2023年12月8日(金) 19:00開演 指定席
 前売・当日¥4,000(友の会会員¥3,500)

出演 中村澁己(津軽三味線)、高橋優介(ピアノ)

曲目 青森県民謡:津軽じょんがら節
 秋田県民謡:秋田荷方節
 京都府民謡:竹田の子守唄
 中村澁己:糸命-SHIMEI-
 星吉昭(姫神):神々の詩
 御徒町風 作詞:森山直太郎 作曲:花 ほか

響き渡る津軽三味線、彩り舞う唄。中村澁己が贈る「風華秋色」のリサイタル。伝統を継ぎつつ、新たな感性で表現された中村澁己の音の情景。津軽三味線全国大会個人最高峰部門 史上最年少優勝記録を二度樹立1(当時14歳)2022年第40回記念津軽三味線世界大会個人A級(最高峰部門)初出場で優勝など、数々の賞を総なめした天才三味線奏者!

主催 日本コロムビア株式会社



協賛公演 **アンセットシス『Plays ラフマニノフ』**

2023年12月10日(日) 14:00開演 指定席
 前売・当日¥5,500(友の会会員¥5,000)

出演 山中惇史、高橋優介(以上ピアノ)

曲目 ラフマニノフ:交響曲 第2番 ホ短調 op.27 (2台ピアノ版世界初演)
 前奏曲「鐘」 op.3-2(solo)
 バガニーニの主題による狂詩曲より 第18変奏(solo)
 R.ロジャース:映画『サウンド・オブ・ミュージック』より「My Favorite Things」,「Edelweiss」
 R.ニューマン:映画『トイ・ストーリー2』より「When She Loved Me」
 J.ウィリアムズ:映画『フック』より「ネバーランドへの飛行」

独自の作曲作品を軸にプログラミングするユニークな活動により注目を集める気鋭のユニット、アンセットシス。

主催 日本コロムビア株式会社



協賛公演 **宮田大 チェロ・リサイタル2023 with ジュリアン・ジェルネ**


2023年12月13日(水) 19:00開演 指定席
 前売¥5,000(友の会会員¥4,500) 当日¥5,500(友の会会員¥5,000)

出演 宮田大(チェロ)、ジュリアン・ジェルネ(ピアノ)

曲目 村松崇継:Earth 菅野祐悟:ACT
 久石譲:Asian Dream Song 吉松隆:ベルベット・ワルツ
 ピアソラ:リベルタンゴ 加羽沢美濃:Desert Rose
 サン＝サーンス:チェロソナタ 第1番 op.32
 坂本龍一:星になった少年
 植松伸夫:ザナルカンドにて

チェリストの宮田大です。今回は私が敬愛する作品を中心に選曲いたしました。どの作品もストーリーがあり、心の奥底に染み渡るメロディーとハーモニーは皆様の心の癒しになることと思います。後半はフランスを代表する作曲家、サン＝サーンス:チェロソナタ第1番を、フランス在住のジュリアン・ジェルネさんと共にお届けいたします。様々な物語や世界観をお楽しみください。またジュリアン・ジェルネさんとの大阪公演は約5年ぶりとなります。ぜひ会場でお会いできることを楽しみにしております。

主催 日本コロムビア株式会社



協賛公演 **<冬のチェンバロ音楽祭2023>**
トビリシ弦楽四重奏団


2023年12月25日(月) 19:00開演 自由席
 一般前売¥3,500(友の会会員¥3,150) 一般当日¥4,000 学生&25歳以下前売・当日¥2,500 ※友の会割引はお1人様2枚まで

出演 ギョルギ・ババアゼ、チブリアン・マリネスク(以上ヴァイオリン)、ザザ・ゴグア(ヴィオラ)、林裕(チェロ)

曲目 シューベルト:弦楽四重奏曲 第14番 二短調「死と乙女」 D810
 スルハン・ツィンツァゼ:弦楽四重奏のための6つのミニチュア
 ヴァジャ・アザラシヴィリ:弦楽四重奏のための6つのミニチュア
 カハ・ツァバゼ:弦楽四重奏のための5つの小品
 坂本龍一:Merry Christmas Mr. Lawrence
 レヴァズ・ラギゼ:トビリシの歌

峻険なコーカサス山脈の南にあってヨーロッパの東とアジアの西が接するところ、ジョージア。古代からの悠久の歴史と文化を持つ。どこか懐かしさを感じるその音楽は、幸い大阪で結成された関西フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターが率いるトビリシ弦楽四重奏団で聴くことができる。—私たちは“世界的コロナ禍”をのり超えることができようか、切実に平和を求める思いからの、待望の公演となります。

主催 冬のチェンバロの会



協賛公演 **Trio Japan(石田泰尚、西谷牧人、佐藤卓史)ブラームス:ピアノ三重奏曲全曲演奏会**


2024年1月14日(日) 14:00開演 指定席
 前売・当日¥5,500(友の会会員¥5,000)

出演 石田泰尚(ヴァイオリン)、西谷牧人(チェロ)、佐藤卓史(ピアノ)

曲目 ブラームス:ピアノ三重奏曲 第1番 口長調 op.8
 ピアノ三重奏曲 第2番 八長調 op.87
 ピアノ三重奏曲 第3番 八短調 op.101

クラシック界の中心核となるソリスト3名による新しいトリオ。神奈川フィルハーモニー管弦楽団首席ソロ・コンサートマスター、ソリストとして不動の人気を誇る石田泰尚、東京交響楽団首席チェロ奏者として活動をへてソリストとして活動している西谷牧人、シューベルト国際コンクール第1位等国際コンクール受賞歴が多数ある佐藤卓史。キャラクターは異なれど実力があり人気を博しているアーティストによる新ピアノトリオ。

主催 日本コロムビア株式会社

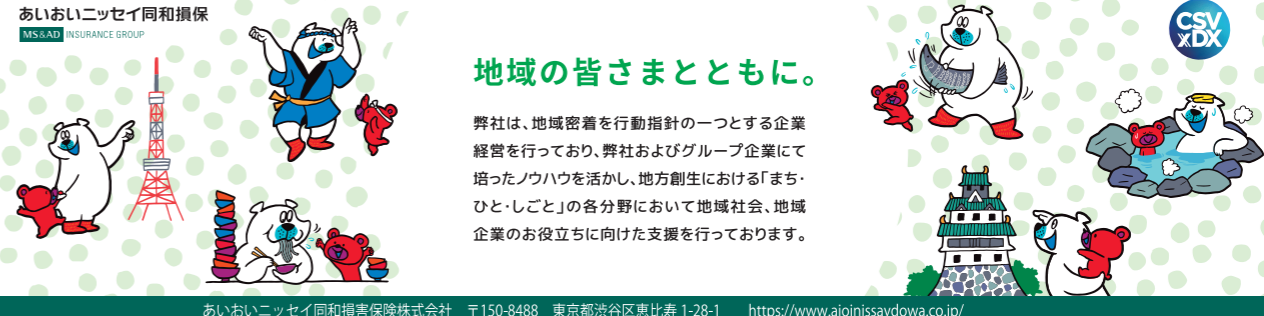


あいおいニッセイ同和損保 MS&D INSURANCE GROUP

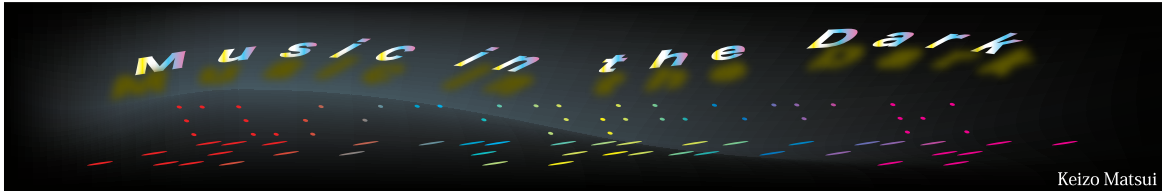
地域の皆さまとともに。

弊社は、地域密着を行動指針の一つとする企業経営を行っており、弊社およびグループ企業にて培ったノウハウを活かし、地方創生における「まち・ひと・しごと」の各分野において地域社会、地域企業のお役に立ちに向けた支援を行っております。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 〒150-8488 東京都渋谷区恵比寿 1-28-1 https://www.aioinissaydowa.co.jp/



視覚障害者と共に創る暗闇のコンサート「ミュージック・イン・ザ・ダーク」[®]



“真っ暗な宇宙に放り出されてしまったような孤独感と、音を奏でる人間の息遣いを耳元に感じる親密さの両方を感じた。”

これは「ミュージック・イン・ザ・ダーク」に会場されたお客様の感想です。「ミュージック・イン・ザ・ダーク」とは、視覚障害のある演奏家と視覚障害のない演奏家の合同メンバーによるアンサンブルが、照明をすべて消した暗闇の空間で演奏するコンサートです。東京藝術大学で私が携わる「インクルーシブアーツ研究」の取り組みの一つとして2015年に始まり、横浜みなとみらいホールで定期的に行われています。

暗闇で演奏会をする、という発想は、視覚障害のある世界的ヴァイオリニスト川島成道さんの「僕の練習は、曲を全部暗譜した時から始まる。」という言葉に衝撃を受けたことから生まれました。通常、演奏家たちは「譜読み」と言って楽譜を見ながら練習を重ね、そのゴールとして本番のコンサートで暗譜(楽譜を見ない)で演奏する、という順番で進むと思うのですが、視覚障害のある演奏家たちは、その曲を演奏するためにはまず曲を暗譜しなければならない、つまり「暗譜→練習→本番」という順番で演奏を仕上げていることを知ったのです。

視覚と音楽はどのように影響し合っているのだろう。見ることと聴くことはどのように違うのだろう。そんな問いかけからこのコンサートは始まりました。これまでに、弦楽合奏や尺八アンサンブルによるコンサートで、シリーズ七回を重ねています。

「ミュージック・イン・ザ・ダーク」では視覚障害当事者をスタッフに交えて、様々なアドバイスをを受けながら、届けたい人に確実に届けるための宣伝・公演方法を心がけています。ポスターやチラシにはなるべくはっきりした色や太文字を使い、紙面に音声ガイド(読み上げ機能)を付け、点字のチラシも作ります。目で見てわかりやすい文言と、耳で聞いて

て伝わりやすい文章はまったく違うので、見るチラシ、聴くチラシの二種類を作成します。

コンサート当日は開演前に、視覚障害のあるお客様のための「鑑賞ガイド」を催し、コンサートのメインとなる楽器に触れたり実際に音を出す体験を提供して、「この楽器からこの音が出る」ことをリアルに感じていただきます。ある視覚障害の方が初めてヴァイオリンを触った時、「とても小さい楽器でびっくりした。遠くまで響くから、もっと大きな楽器だと思っていた」と驚いていたのが印象的でした。

そして本番では、まず前説として司会者がホール空間の広さをマイクを使わず生声で説明した後、舞台上に演奏者たちが登場し位置につきます。すーっと照明が暗転し、目が慣れてくることがないほどの完全な闇がつくり出されます。視覚障害の有無にかかわらず奏者全員が自分のパートを暗譜し、アイコンタクトを取らず、息遣いと気合だけで一条乱れぬアンサンブルを作り出すのです。

客席で、漆黒の闇から響いてくる音に耳を傾けると、全身の感覚がどンドン研ぎ澄まされていくのが感じられ、次第に椅子に座っている感覚もなくなり、自分の肉体が消えたような錯覚にとらわれます。

見えないことによって聞こえる音、見えることによって聞こえなくなる音。人間の認識は、いかに視覚情報に支配されていることでしょうか。「一目瞭然」「百聞は一見にしかず」という言葉もありますが、人間は見る生き物なのだというところに改めて気付かされます。

「ミュージック・イン・ザ・ダーク」は、視覚障害をテーマとした一つの試みではありますが、視覚とはなにか、音とは、音楽とはなにかを深く考えるきっかけになればと、更なる進化を目指しています。

(横浜みなとみらいホール館長 新井鷗子)



■公演情報

2023年度は横浜みなとみらいホールの開館25周年。ピアニスト・指揮者の反田恭平(みなとみらいホール・プロデューサー・イン・レジデンス2023-2025)のプロデュースにより「25周年記念フェスティバル」を2024年3月20-24日に開催予定。同フェスティバルには「ミュージック・イン・ザ・ダーク」公演も含まれる。

横浜みなとみらいホール 〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい2丁目3-6
問い合わせ: TEL 045-682-2000

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪府北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー8F TEL 06-6363-0211

Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2023年9月
発行 あいおいニッセイ同和損保
ザ・フェニックスホール
編集 上田英司
デザイン 松井桂三有会社

